

木造阿弥陀如来坐像

埼玉県指定文化財 長福寺所有

阿弥陀如来は阿弥陀仏ともいい、日本には7世紀の始め頃に伝えられ、平安時代以降に極楽浄土を願う浄土信仰が盛んになると、多くの阿弥陀如来が作られました。

本像の特徴の一つは、底面に製作年代や作らせた人物を記した墨書があることです。「武州騎西郡糯田郷六角堂 阿弥陀像一軀 大檀那沙門唯信 正慶元年 壬申正月十一日造始 同癸酉十月下旬奉修造也」と書かれており、鎌倉時代末期である正慶元年（1332）に作り始め、翌年に出来たことが分かります。元々は糯田郷の六角堂の阿弥陀如来であり、糯田郷は持田村のことと思われるが、六角堂は現存していません。しかし、持田につながる「糯田」という地名がすでに鎌倉時代には使われていたことがこの墨



木造阿弥陀如来坐像

本像が作られた正慶2年は鎌倉幕府が滅亡し、建武の新政が始まるという時代の大きな転換点でした。南北朝の動乱につながる時代の中で作られた阿弥陀如来は、約700年前の人々の祈りを今に伝えてくれます。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

書から分かります。

本像を作らせた唯信という僧は、浄土真宗の開祖親鸞の高弟、性信の弟子とされる人物です。性信は親鸞最初の弟子であり、親鸞自筆の「教行信証」を受けられるほど、高い信頼を得ていました。下総国横曾根（茨城県常総市）を布教の拠点にしたので、性信の元に集まった信者を横曾根門徒といい、その勢力は関東や東北、東海地方にまで広がりました。また、同じく親鸞の高弟である源海は市内荒木を拠点として、布教活動にあたりました。彼の信者は荒木門徒とよばれ、武蔵国から上野国にかけて広がりました。このように、当時行田周辺では浄土真宗の信者の活動が盛んであり、それを背景として性信の弟子である唯信が阿弥陀如来を作らせ「糯田」の六角堂に安置したと考えられます。

こせに ちゃんが 行く! with フラベス 福祉施設編

えん 縁どうまめ (運営:合同会社 縁グループ)

平成27年9月にオープンした縁どうまめは、1歳から18歳までを対象に児童発達支援や放課後等デイサービスを行っている施設だよ。現在は約20人が登録していて、放課後や長期休暇をみんなで一緒に過ごしているよ。普段は、1人1人の能力に合わせた課題をこなしたりしているけど、職員が優しくサポートしてくれるから、自分のペースで課題に取り組むことができるんだ。また、お花見や遠足、クリスマス会など季節ごとのイベントも充実していて、みんな仲が良いからとっても盛り上がるんだって。私も参加してみたいな。温かい雰囲気の中で、子供たちがのびのびと成長できる縁どうまめ。相談や見学を随時受け付けているので、気になった方はぜひ連絡してみてくださいね。

【住所】持田2258-7 【電話番号】577-4927



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

3月26日、さきたま古墳公園や古代蓮の里などの市内の名所を巡る「行田ふれあいポタリング&ウォーキング2016」が開催されました。今年で2回目となるこのイベントでは、30キロメートルのポタリングコースに加え、新たに「川のまるごと再生プロジェクト」で整備された忍川沿いを歩く13キロメートルのウォーキングコースを用意。市内外から266人が参加し、自転車や徒歩で春の行田の風景を楽しみました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジェスト版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。

